

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注 1)	No.	タイトル	自治体名
		共に創る魅力・にぎわいあふれるまち	宇部市
アイデア名 (注 2) (公開)	ときわ公園のユーザー参加型ルート案内アプリによる魅力、満足度の向上		

(注 1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注 2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Met qua		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	6 名		
代表者情報	氏名 (公開)	井上 弘規	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<アイデアの内容>

ときわ公園の来園者の増加、満足度の向上を目的とした、案内アプリの考案

<解決アイデアの内容と考案までの流れ>

・アイデアの概要

このアイデアは、ときわ公園に来られた方に楽しんでいただき、何度でも来ていただけるように、来園時の天気や、季節などをもとにその時々のおすすめルートを提案するアプリの案です。

お子様連れであれば、家族で楽しめるようなルートを、雨の日であれば屋内を中心にしたルートなどアプリの利用者や利用時の天候等を考慮したおすすめルートを提案することでときわアプリを公園の案内アプリを考えています。

また、車での来園者に対して駐車場への積極的な誘導を行うことで、ときわ公園における駐車場収入の増加を目指しています。

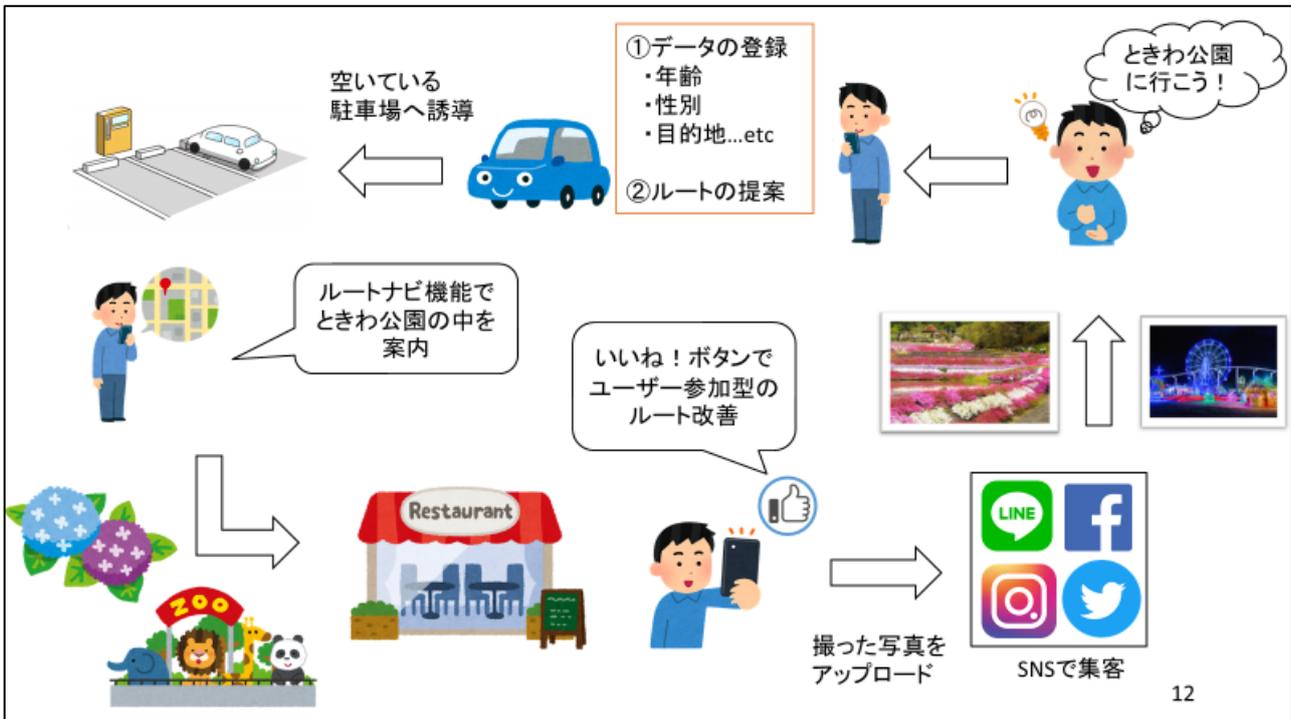


図 1.アイデア概要のイメージ図

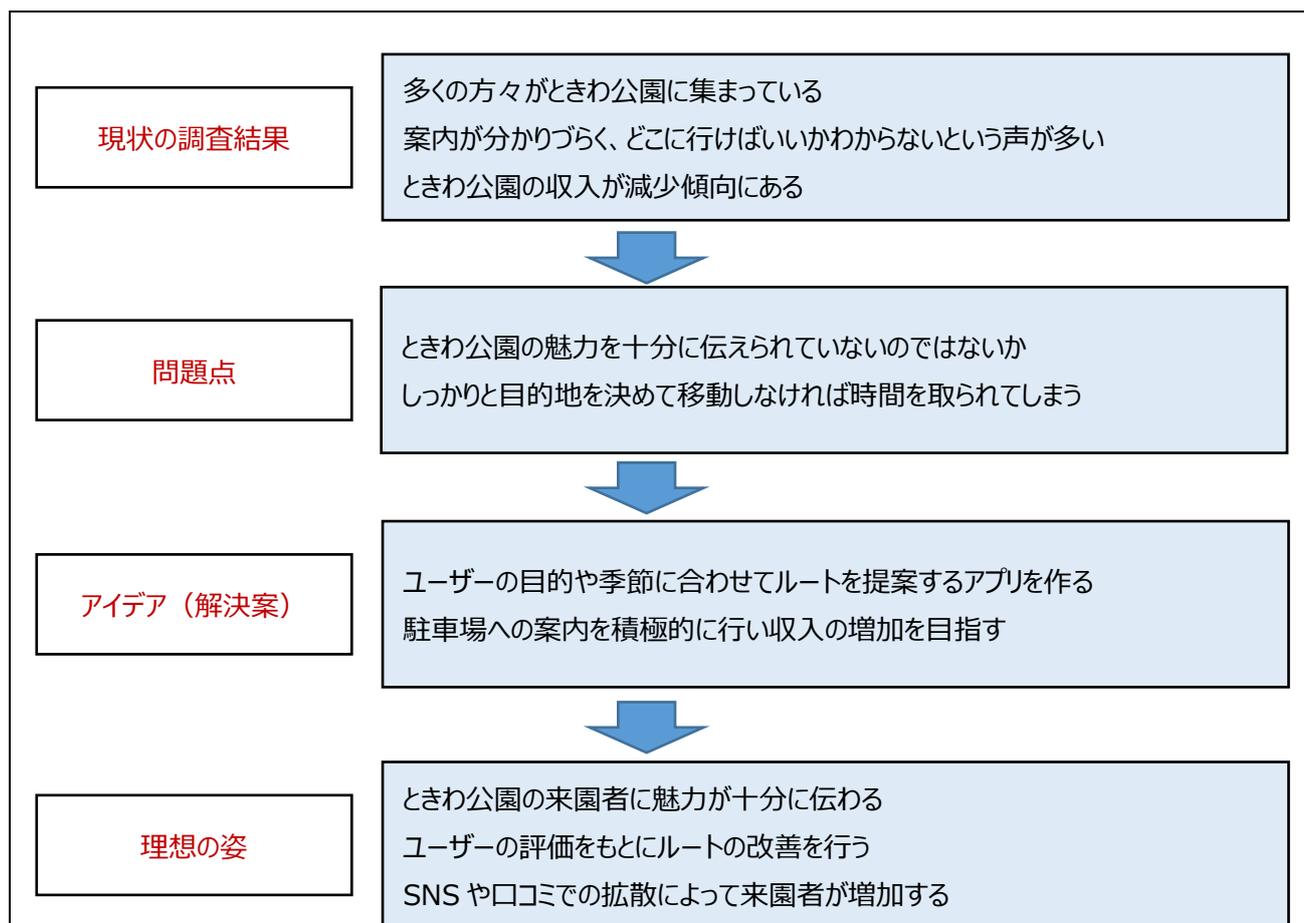


図 2.アイデア考案までの流れ

・アイデア実現のための活動内容

Step1-より詳細な現地調査を行い、プリセットとなるルートを作成します

ときわ公園の Web サイトに現在掲載されているおすすめルートを参考にしながら季節、年代等を考慮したおすすめルートのプリセットを作ります。

Step2-駐車場案内のための設備を導入します

駐車場の空き状況をデータとして取得できるように設備を導入します。

Step3-アプリ開発、および宣伝を行います

ときわ公園内、宇部空港、ときわ公園パンフレットおよび Web サイトに QR コードを掲示していただき宣伝をする。という案を現在考えています。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

・宇部市の現状についての調査結果

- ・観光客数は増加傾向にあることがわかりました。（図3より）
- ・しかし、県外からの観光客数は少なく、増加傾向も小さいという課題がありました。（図3より）
- ・観光客の多くがときわ公園に集中していることがわかりました。（図4より）

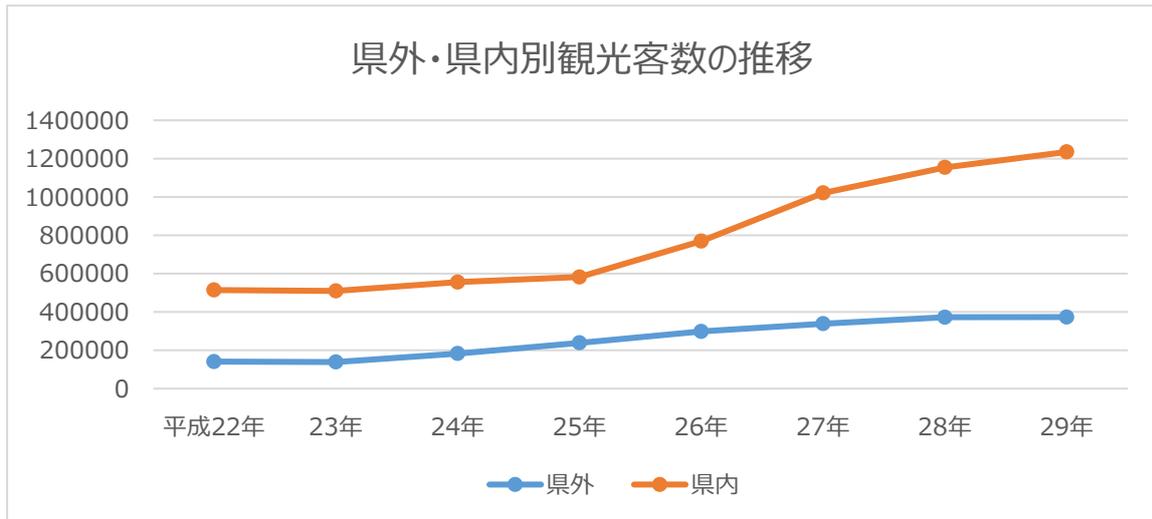


図3.宇部市の県内、県外別観光客数

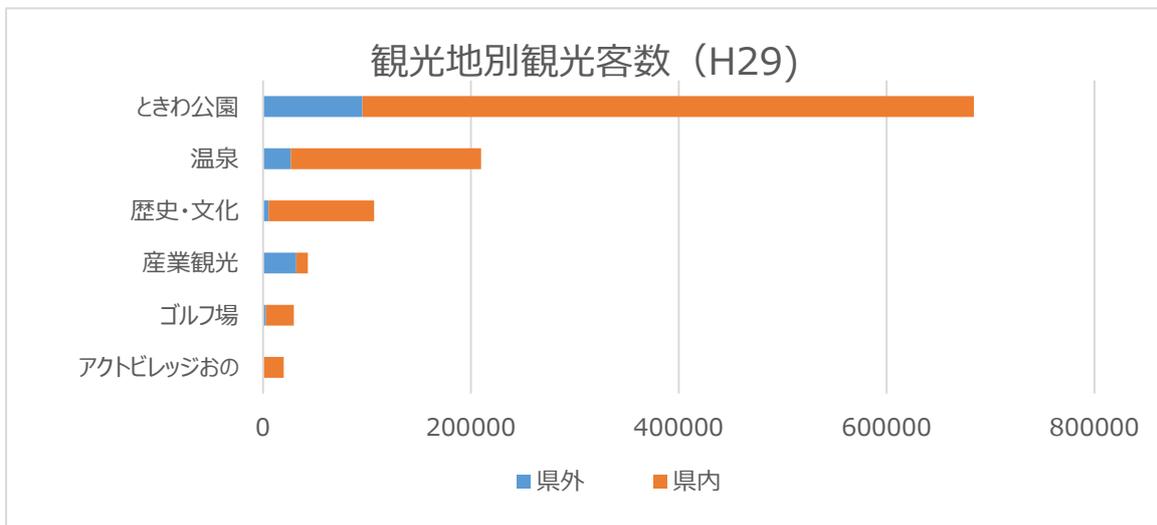


図4.宇部市内の観光地別観光客数

図3.図4. 山口県の宿泊者及び観光客の動向より引用

(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/9/e/c9e859d5379147f38d4fed96a817f31b.pdf>)

・考察

これらの結果から宇部市活性化のカギはときわ公園にあると考え、ときわ公園の来園者の増加、満足度の向上を目的としたアイデアを考案することにしました。

・ときわ公園についての調査結果

ときわ公園の収支とその推移を図 5 に、主な収入の内訳を表 1 にまとめました。

ときわ公園の収支と年間入園者数の推移

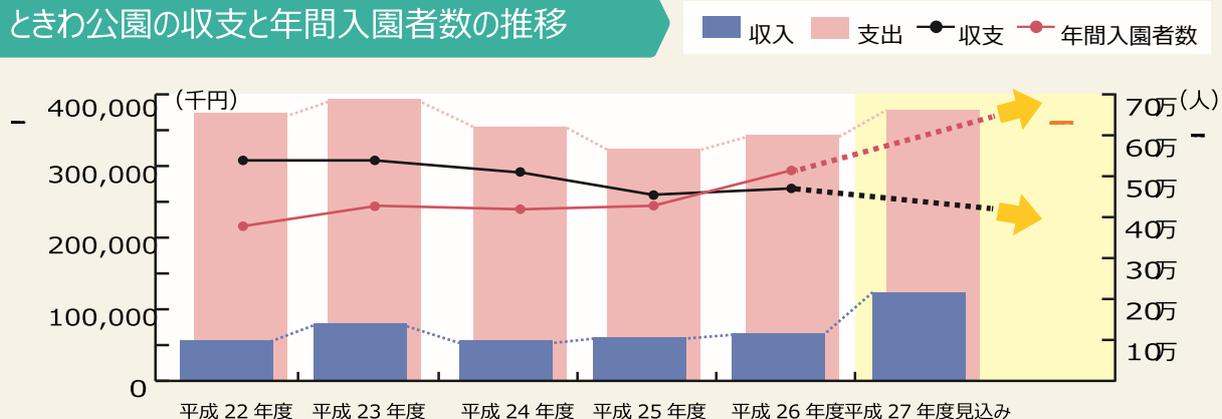


図 5.ときわ公園の収支とその推移

図 5.ときわ公園活性化基本計画より引用

(http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/toshikeikaku/tokiwakouen/documents/chapter4_1.pdf)

表 1. H28 年度、H29 年度、ときわ公園の主な収入の内訳

平成 29 年度公益財団法人宇部市常盤動物園協会事業報告より引用

(<https://www.tokiwapark.jp/zoo/others/files/H29houkoku.pdf>)

	H28 年度	H29 年度
駐車場収入 (円)	57,475,100	54,502,800
入園料収入 (円)	54,220,250	49,268,150
自販機売上 (円) (自販機、写真機の合計)	6,109,957	6,896,978

・結果と考察

これらのデータからときわ公園の収入が、伸び悩んでいること、主な収入源としては、駐車場と動物園の入園料であることがわかりました。

そのため、来園者の目的地への最寄りの空き駐車場へ案内する機能をアプリ内で実装することで、駐車場収入の増加を狙っています。

また、初期のおすすめルートの前セットに動物園を多く含み、SNS での拡散を推進することで入園料収入の増加も見込めると考えました。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

・アイデア実現までの流れ

まず、駐車場の空き状況をデータとして取得するための設備の導入を宇部市と連携して行うことが必要となります。その後、実際にアプリの開発を行います。この際も、プリセットとなるルートのコ案や、オープンデータの活用において市との連携が必要であると考えます。

次に、アプリの周知に関しては、ときわ公園内、宇部空港で QR コードを掲示していただく形や、同様にときわ公園のパンフレット、Web サイト内での QR コードの掲示が有効な手段であると考えており、実際に可能なのか検討を進めていきたいと思ひます。

アプリの運用段階では、実際に利用者にアプリを使っただくことでデータを蓄積します。そのデータをもとに継続的にルートの改善を行っていくことが、主な、管理内容になるかと思ひます。

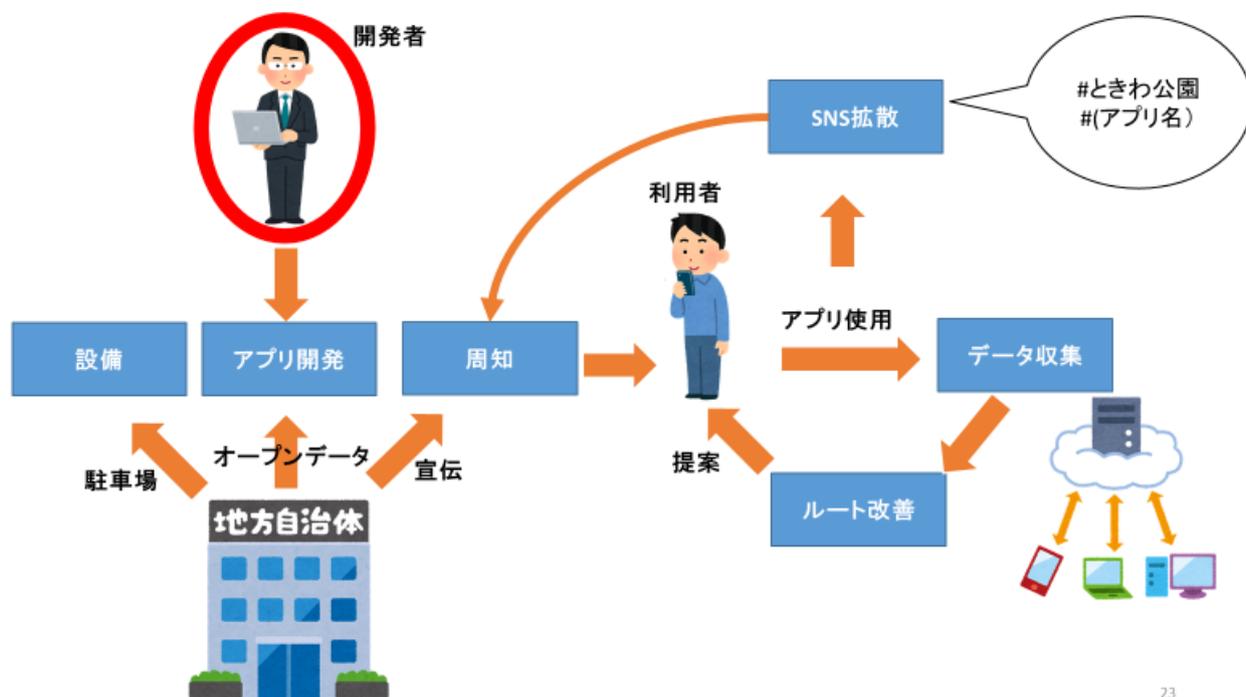


図 6.アイデア実現までの流れ（イメージ図）